

## 「JAバンク茨城子ども食堂応援助成2024」活動報告書

<b>活動名</b>	ぼくらの教室 学習支援とこども食堂
<b>団体名</b>	ぼくらの教室
<b>この活動で取り組んだ地域の課題や背景(※)</b>	子どもたちの環境の格差が問題だと考えています。片親世帯や共働き世帯が多い地域です。生活をするのに苦労する家庭もある中でこどもたちは塾などの習い事をやれる子もいれば、やりたくてもできない子がいる。家に親がいないから友達の家や外に行かせようとするが、友達の家には遊ばせに行ったら大人はいなくて子どもだけで家で遊んでいた。なにかあったらと怖くて遊びに出かけさせるのに不安になった。このような話を身近に聞きました。子どもは自宅でひとりぼっちで待つしかない。このような課題があります。
<b>この活動の目的(※)</b>	子どもたちが安心して居てもいいんだと思える居場所づくりが目的です。保護者もこどもと一緒に食べるお昼ご飯でコミュニケーションをとってもらおう。
<b>活動の対象(※)</b>	幼・小・中・高学生、保護者、高齢者
<b>実施内容</b>	こどもの学習支援と子ども食堂（保護者も参加OK）の活動を大野ふれあいセンターで毎月2回開催。（第1、3土曜日） 活動には高校生ボランティアを呼び教師役を務めてもらう。こども食堂のお昼ご飯は調理スタッフが調理し提供する。子どもたちとコミュニケーションをとり来てよかった、ここに居たいと思えるような環境を目指して活動に取り組んだ。
<b>活動実施後の成果</b>	一定のこども達が学習支援とこども食堂に継続的に参加するようになりました。今年度においては高校生ボランティアが活発的に活動しており、こども達とのコミュニケーションをとり楽しく居られる居場所づくりができているのではと感じています。また子供たち同士でも交流の輪が広がっています。市内から他地区の学校の生徒が集まることで普段、接する事のないこども同士が関わることで学校の中にとらわれない関係が新しくできています。学習支援においても高校生ボランティアが積極的に子どもたちに声を掛け、学習のサポートが出来ていると感じました。子どもたちが安心して楽しく居られる場所になっています。
<b>今後の展望や新たに増えてきた地域課題</b>	今後も継続して活動を行い、孤独でいる子どもたちを一人でも多く呼んで、皆が楽しく集まれる居場所でありたいと思います。 地域の課題は高齢化の問題が深刻です。メンバーにも高齢者が多く継続していく為には若い世代のボランティアを集める必要があります。

※ 申請書から転記いただいて構いません。

## 「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

子ども食堂応援定期貯金預金者への一言 (※)	どんな世の中になってもこどもの在り方は変わらないと考えています。こどもたちが笑っている、安心して居られる。健全な成長ができる居場所がある。そんな居場所づくりをしていきます。ご支援ありがとうございました。
自己評価 (いずれかに ○を記入)	A. 目標を超える成果を得ることができた <input checked="" type="radio"/> B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ( )
自己評価で C を記入された 場合、その理由	(Blank space for reasons)

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。